

近くて遠い鬱陵島、

2011.9.11

拓殖大学下條正男

1. 訪問の背景

(1) 韓国側の挑発

5月24日、韓国の独島領土守護対策特別委員会（姜昌一）の国後島電撃訪問

(2) 韓国側の現状

3月30日、日本の中学校社会科教科書に竹島記載→反発

(3) 事大党の台頭（独立党）←19世紀末の朝鮮半島

2012年末の大統領選挙と韓国内の動静

(4) 6種の『韓国史』（高校用歴史教科書）

資本主義批判、市場経済に批判的

(5) 民主党政権の無策（日韓双方のマスコミ）

現象を報道、見なし報道

2. 入国拒否

(1) 入国拒否の理由

「出入国管理法第11条」違反

(2) 入国拒否に対する韓国側の意見

日本の右傾化、日本の軍国主義化、第二の侵略

(3) 入国拒否と問題点

基本的人権無視、言論封鎖と言論の自由侵害、肖像権侵害

(4) 日本側の問題点（自民党内の韓国側との癒着関係）

① 公式から個人へ、「韓国外交勝利？日本議員鬱陵島訪問取り消し可能性」

<http://kr.news.yahoo.com/service/news/shellview.htm?articleid=20110728100847421j3&linkid=4&newssetid=1352>

<http://kr.news.yahoo.com/service/news/shellview.htm?articleid=20110725062252864l6&linkid=4&newssetid=1352>「李相得、日本議員等の鬱陵島訪問自制要請」

② 平澤勝栄氏離脱の理由

<http://kr.news.yahoo.com/service/news/shellview.htm?articleid=2011081200074620819&linkid=4&newssetid=1352>「写真を撮りに独島に行く政治家たち」

3. 事後の対策

(1) 国内法による対処

(2) 研究の深化（持続的研究）と政治家との連携

(3) 広報活動の必要性

(4) 研究機関の設立（不偏不党）